

生誕 100 年 写真家・濱谷浩

—人間とは何か、日本人とは何か 1930s-1960s

Hiroshi Hamaya: Photographs 1930s-1960s

展覧会の概要

濱谷浩(1915～1999)が、1945年8月15日に疎開先の新潟県の高田で撮影した《終戦の日の太陽》から70年、本年は戦後70年であるとともに、濱谷の生誕100年に当たります。濱谷浩は、ロバート・キャパラによって結成された写真家集団マグナム・フォトとアジア人として初めて契約し、写真界のノーベル賞と言われるハッセルブラッド国際写真賞をやはりアジア人として初めて受賞するなど、国際的に高い評価を得た我が国を代表する写真家です

東京に生まれ育ち、1930年代の銀座や浅草など華やぐ都会の情景や風俗を撮っていた濱谷は、1939年に雑誌の取材で初めて冬の高田を訪れたことを契機に、写真家としての方向性を大きく変えていくこととなります。民俗学への傾倒とともに翌年から10年間にわたり新潟県の桑取谷の山村における民俗行事を撮影し、後に自身初の写真集となる『雪国』を出版します。さらに、この風土と人間をめぐる探究心は、青森から山口にいたる日本海の沿岸に暮らす人々を3年間にわたり記録撮影した写真集『裏日本』へと発展します。「人間が人間を理解するために 日本人が日本人を理解するために」という巻頭文は、まさに濱谷の生涯の主題です。

1960年の安保闘争では、それまで政治的な取材とは関わりがなかった濱谷は危機感を抱き、徹底的な取材を実行します。それは、マグナム・フォトを通してヨーロッパ各国に報道されるとともに、『怒りと悲しみの記録』として出版されます。しかし、日本の社会と人間に対する失望は深く、その後は日本や世界各地の自然を撮影することに力を注いでいくのでした。

本展では、濱谷浩の1930年代の写真家としての出発点から1960年代の安保闘争までの国内で撮影された主要なモノクローム写真を通して、「人間」と「日本人」の在り方を問い続けた写真家・濱谷浩の足跡をたどります。本展が、現在の日本とそこに生きる私たち自身を見つめ直す機会となれば幸いです。

基本情報

展覧会名：生誕 100 年 写真家・濱谷浩—人間とは何か、日本人とは何か 1930s-1960s

会 期：2015年7月4日(土)～8月30日(日) [52日間]

休 館 日：7月6日(月)、13日(月)、21日(火)、27日(月)、8月10日(月)、24日(月)

開館時間：9:00～17:00 ※観覧券の販売は16:30まで

観 覧 料：前売券 一般 800 円、大高生 600 円

当日券 一般 1,000 円(800 円)、大高生 800 円(600 円)

※()内は有料 20 名以上の団体料金。

※中学生以下は無料。

※障害者手帳、療育手帳をお持ちの方は無料。受付で手帳をご提示ください。

※前売券は、県内プレイガイド、セーブオン、NIC 新潟日報販売店、近代美術館・万代島美術館ミュージアムショップなどで、7月3日(金)まで販売します。

主 催：新潟県立近代美術館

共 催：新潟日报社

特別協力：濱谷浩写真資料館

企画協力：株式会社クレヴィス

協 賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社、文化堂印刷株式会社

協 力：高田文化協会、株式会社新潟フジカラー

後 援：長岡市、長岡市教育委員会、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、NHK 新潟放送局、BSN 新潟放送、N S T、TeNYテレビ新潟、UX 新潟テレビ 21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、燕三条エフエム放送株式会社、FM ながおか 80.7

展覧会の構成

濱谷浩の 1930 年代の写真家としての出発点から 1960 年代の安保闘争までの国内で撮影されたモノクローム写真 200 点を、関連資料とともに5章に分けてご紹介します。

第1章 モダン東京



濱谷浩は、15 歳の時に父親の友人からブローニー判のハンドカメラを贈られて写真を始めます。1933 年に 18 歳でオリエンタル写真工業に就職すると、勤務地の銀座のモダンな街の光景や浅草など下町の盛り場の風俗を撮影し、写真家としての道を歩み始めます。

①濱谷浩《森永キャンデーストア前、銀座、東京》1936 年

第2章 雪国



1939年に雑誌の取材で冬の新潟県の高田を訪れたことで、東京に生まれ育った濱谷浩は「雪国」という別世界を知り、高田の民俗学研究者・市川信次の案内で翌年から10年間にわたり新潟県の桑取谷の山村における小正月の民俗行事を撮影し、1956年に自身初の写真集となる『雪国』を出版します。

②濱谷浩《歌ってゆく鳥追い、桑取、新潟》1940年

第3章 裏日本



濱谷浩は、『雪国』の撮影を通して確実となった風土と人間をめぐる探求心をさらに深めるため、1954年から3年間にわたり青森から山口にいたる日本海沿岸に暮らす人々を撮影し、1957年に写真集『裏日本』を出版します。「人間が人間を理解するために日本人が日本人を理解するために」という同書の巻頭文は、濱谷の生涯の主題となります。

③濱谷浩《越後の女、松ヶ崎、新潟》1955年

第4章 戦後昭和



疎開先の新潟県の高田で終戦を迎えた濱谷浩は、8月15日に《終戦の日の太陽》を撮影します。その後、6年間同地に暮らした後、神奈川県の大磯に移ります。目まぐるしく変化する戦後日本社会の諸相を写し撮り、1960年の激化する安保闘争では徹底的な取材を繰り返して、写真集『怒りと悲しみの記録』にまとめられます。

④濱谷浩《終戦の日の太陽、高田、新潟》1945年

第5章 學藝諸家



濱谷浩は人物の肖像を数多く撮影しています。1937年から1982年までに撮影した日本の学者と芸術家91人を1983年にまとめたのが写真集『學藝諸家』です。これらの写真は、様々な雑誌の取材で撮影されたものが多いものの、それぞれの人物を通して日本の約半世紀の激動する時代性を感じ取ることができます。

⑤濱谷浩《會津八一》1947年

濱谷浩 略年譜

- 1915年(0歳) 東京下谷に生まれる。
- 1930年(15歳) 父親の友人からブローニー判のハンドカメラを贈られて写真を始める。
- 1933年(18歳) 関東商業学校卒業。在学中に写真部を作る。实用航空研究所を経てオリエンタル写真工業に入社し、同社の写真家・渡辺義雄らを知る。
- 1937年(22歳) オリエンタル写真工業を退社、フリーのカメラマンとして独立する。
- 1938年(23歳) 滝口修造を中心に永田一脩、阿部展也らと前衛写真協会を結成する。
- 1939年(24歳) 高田連隊スキー部隊の取材で新潟県高田を訪れ、市川信次を知る。
- 1940年(25歳) 新潟県桑取谷の山村の民俗行事を撮影し、以後10年間通う(56年に写真集『雪国』発行)。渋沢敬三の民俗学に傾倒。
- 1941年(26歳) 東方社に入社、対外宣伝誌『FRONT』のため陸海軍撮影。翌年、退社。
- 1944年(29歳) 一時応召されるが持病により除隊。
- 1945年(30歳) 新潟県高田の善導寺に疎開。玉音放送を聞き、終戦の日の太陽を撮影。
- 1946年(31歳) 初個展「豪雪の記録写真展」(高田いづも屋百貨店)を開催。
- 1947年(32歳) 個展「越後の七人の芸術家」(第四銀行高田支店他)を開催。
- 1952年(37歳) 神奈川県大磯に転居。
- 1954年(39歳) 裏日本の撮影を開始(57年に写真集『裏日本』発行)。
- 1960年(45歳) 写真家集団マグナム・フォトと契約(アジア人初)。安保闘争を取材、ヨーロッパ各国に報道され、個展「怒りと悲しみの記録」を日本各地で開催(写真集発行)。
[1960年代後半から日本と世界の自然に目を向け、約8年間で六大陸を踏破し自然を撮影]
- 1982年(67歳) 芸術選奨文部大臣賞を受賞するが、歴史教科書問題に反発し返上。
- 1986年(71歳) アメリカの国際写真センター(ICP)の写真巨匠賞受賞。
- 1987年(72歳) 写真界のノーベル賞と言われるハッセルブラッド国際写真賞受賞(アジア人初)。
- 1997年(82歳) 英国王立写真協会から名誉会員の称号を贈られる(日本人初)。
- 1999年(83歳) 神奈川県平塚にて没す。享年83。

会期中のイベント

■ 記念講演会「濱谷浩を語る」

7月4日(土) 14:00～／当館講堂／無料

講師：多田亞生氏(本展監修者)／聞き手：当館学芸員

■ 美術鑑賞講座「濱谷浩と写真」

7月25日(土) 14:00～15:30／当館講堂／無料

講師：澤田佳三(当館学芸課長代理)

■ 映画鑑賞会『十二人の写真家』

(監督：勅使河原宏、1955年、49分)

7月18日(土) 11:30～／14:00～／当館講堂／無料

■ 終戦記念日イベント「玉音放送とともに振り返る8月15日」

8月15日(土) 9:00～16:30(随時入退場可)／当館講堂／無料

■ 学芸員によるギャラリートーク

7月12日(日)、19日(日)、8月9日(日)、23日(日)、30日(日)の14:00～／企画展示室／要当日観覧券

■ ワークショップ

「プロの技で、美術館再発見！～デジカメを使って～」

7月11日(土) 14:00～16:00／講師：仲條均紀氏／参加費800円／定員30名／要事前申込
「ねんどでアニメーション」

8月22日(土) 14:00～16:00／要材料費・コレクション展観覧券／定員20名／要事前申込

その他の展覧会場（巡回先）

世田谷美術館 2015年9月19日(土)～11月15日(日)

同時開催の展覧会

コレクション展 第2期

2015年6月25日(木)～8月30日(日)(前期：～7月26日、後期：7月28日～)

- ・展示室1「新潟を描く・新潟を写す」
- ・展示室2「親と子のワクワク美術館① 不思議の国へようこそ」
- ・展示室3「近代美術館の名品」

問い合わせ先

新潟県立近代美術館 学芸課（担当：松矢、澤田）

〒940-2083 新潟県長岡市千秋 3-278-14

TEL: 0258-28-4112 / FAX: 0258-28-4115 / EMAIL: kinbi@coral.ocn.ne.jp